

言語コミュニケーションA③		講義	講師 原田 桂	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目		科目ナンバリング	21200107

1. 授業のねらい・概要

近年、日本語をクイズ形式で問うテレビ番組が多く見られ、日常的に日本語へ目を向ける機会としては歓迎できるブームであろう。しかし、クイズやゲームに挙げられる「ことわざ」や「漢字」といった語彙だけでは、コミュニケーションを成り立たせるのは難しい。情報化社会である現代においては、正確かつ確に用件を文章化する能力が必要不可欠である。この授業では、論理的に物事をとらえ、明確に表現するための基礎をベースに「読み手」「書き手」の言語表現を考えていきたい。さらに、取り上げた文章を通して基礎的な日本語表現を確認しつつ、その背後にある構造やテーマを論理的な思考を用いて、自らの文章により表現できるようにする。

2. 授業の進め方

「読む」「書く」ことを主体とし、様々な文章（小説・詩・エッセイ・研究論文・新聞等）を通して、問題点を指摘する方法で授業を進めていく。また文章だけではなく、媒体の違った表現を文章化するなど、それを他者へ正確に伝える能力を身に付けたい。さらに基礎的な文章表現のルールを確認し、レポートや小論文等、目的に合わせたコミュニケーションの形式を実践すべく、プリントを用いて学習する。なお漢字検定、日本語文章能力検定等の小テストを毎時（10分程度）行う。

3. 授業計画

1. 【概論①】「言語」とは何か？ 「悪文」とは何か？	9. 【構文④】配慮表現・やさしい表現
2. 【概論②】ことばで表現すること	10. 【レポートのルール①】メモの取り方・問題提起
3. 【構文①】直接話法と間接話法	11. 【レポートのルール②】構成の基本
4. 【構文②】話し言葉と書き言葉	12. 【レポートのルール③】引用
5. 【構文③】オノマトペの効果と修辭法（比喩）	13. 【レポートのルール④】出典・参考文献
6. 【図化⇔文章化①】（表示と表現）（説明と描写）	14. 【読解と要約①】要約のポイント・練習問題
7. 【図化⇔文章化②】（事実と意見）	15. 【読解と要約②】要約文実践・社説
8. 【図化⇔文章化③】表・図・グラフの作成	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎時小テストを行うので、事前に配布したプリントの範囲の予習に30分以上、また配布物が多いためプリント類の整理をしながら復習するのに30分は必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

添削、講評した課題や提出物などは、その都度返却し解説する。また、復習と定着に役立つよう無記名にして様々な解答パターンを授業内で紹介する。

6. 授業における学修の到達目標

- ・基礎的な文章表現のルールをしっかりと確認し、他者へ正確に伝える能力を身に付ける。
- ・様々な言語表現を通して背後にあるテーマや構造を理解し、それを文章で表現できるようになることを目指す。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（50％）提出物（20％）小テスト（20％）授業での発言及び取り組み姿勢等（10％）

8. テキスト・参考文献

毎時プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

文章を「入力」「打つ」ことが定着し日常的に文字を「書く」機会が少なくなっていることから、この授業ではPCは用いず「書く」こと（手書き）中心に進めていく。よって、PC等は開かず、またすぐに検索ソフトに頼るのではなく自己の思考を大切にすること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。